

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2794900023		
法人名	社会福祉法人 成和会		
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷		
所在地	大阪府富田林市桜井町2丁目1835番地		
自己評価作成日	平成 28年 1月 31日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2794900023-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 2月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的、精神的に何らかの疾患を伴っていても本人様の希望を重視し普段と変わりなく家庭での生活と変わりがないように寄り添い、支援することにより生活不安をなくし、毎日を有意義に過ごしてもらええる施設を目指しています。・1カ月に1回決まったテーマを職員2名が順番に担当を持ち内部研修を行っています。自分たちで学習し発表することで知識の向上に繋がっています。・7月には全フロア合同で夏祭りを行い、ご利用者様、家族様にも大変好評頂きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養等を運営し、地域密着型サービスを推進している社会福祉法人が運営するグループホームです。小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、利用者間の交流にも取り組んでいます。近くに同法人特養があり、ホームに選択食の提供を行うなど連携した運営を進めています。利用者は地域ボランティアの協力により書道、大正琴、オカリナ、フラダンス等を楽しみ、専門家を招いての音楽療法やアロマテラピーにも参加しています。職員は利用者と共に外食に出かけたり、おやつ作りを楽しんだり、家庭菜園作りに取り組むなど、楽しみごと支援に力を入れています。管理者は職員の育成に力を入れ、職員は利用者の暮らしが、さらに楽しく張り合いのあるものになるよう家族と相談しながら支援しています。管理者は地域自治会総会に参加してホームの存在をアピールし、「認知症カフェ」の開設についても行政と協力して地域での展開を進めるなど、地域との繋がりを大切にしています。家族の協力も得られ、法人のバックアップもあることから、今後もさらにサービス向上が期待されるホームです。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業理念作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。朝礼に理念を唱和しています。	理念には「家庭により近い環境を目指します。自分らしさを大切にします。地域に根ざしたホーム作りに努めます」と明記し、ホーム内に掲示しています。職員は理念を具体化し、利用者が地域とのつながりを持ちながら暮らせるように支援しています。職員は朝礼で理念を唱和して共有し日常支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。(初詣、地域での買い物や秋祭りの鑑賞、会館のイベント利用、散歩の際の挨拶飲食店での外食、学生交流等)	利用者は地域ボランティアの定期的な訪問を受けて書道、フラダンス、大正琴、オカリナ等を楽しんでいます。地域の祭りでは玄関前に山車等が立ち寄り、利用者と職員は出迎えて楽しみながら休憩所としての接待もしています。校区の中学生が来訪し利用者とコミュニケーションを図ることで世代間交流が生まれています。また、近隣幼稚園との交流についても新たに取り組みを進めています。管理者は地域自治会の総会に参加して「認知症」やグループホームについて、理解を深めてもらうよう情報を発信しています。今春、市担当課と連携して施設内に「認知症カフェ」を開設する予定であり、地域に参加を呼びかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は十分果たせていない。地域への働きかけ及び協力体制の整備が課題である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況やサービスの実際、課題、評価への取り組み状況報告し、そこで得た意見等をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の設置規程を作成し2ヶ月に1回、年6回の定期開催を明示しています。昨年度は年6回開催していますが、今年度は4回で終了しています。メンバー構成は、利用者・利用者家族代表・地域包括支援センター職員・地域住民代表・法人代表・ホーム職員等です。会議では、利用者状況や行事等の報告、マイナンバー制度への対応、災害時の備蓄等をテーマとして意見交換しています。出された意見や助言について職員間で共有しホーム運営に活かしています。	今後、管理者は運営推進会議を年6回開催し定着させるよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に事故報告書・入居者情報の提供を行うことで連携を図っている。	定期的に開催される市内グループホーム交流会の開催前後の時間を活用して、市の担当者とは個別相談や情報交換をしています。また、市担当課に出向いて事故報告や入居者情報の提供を行い、対応困難な課題等が生じた場合には相談しながら運営を進めています。管理者は市と連携して「認知症カフェ」開設に着手するなど、新たな取り組みを進めながら協力関係を築いています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議で身体拘束は基本禁止の意識付けを行っている。エレベーター横にロック解除の暗証番号の貼り出しをしている。外に出たい方は職員付添い外に出て頂き付き添ってほしくない方は職員が後ろから様子を伺う等の対応をしている。	運営規程に「身体拘束の禁止」の項を設け、緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束を行わない方針を明記しています。ホームでは転倒・転落防止としてセンサーマット等を活用していますが、困難な場合には夜間のみの対応策としてベッドに四方柵をしています。四方柵については家族と相談し合意の旨を書面に残しています。玄関は開錠していますが、利用者が生活している2階、3階のエレベーターは自動ロックしています。自動ロック解除の暗証番号はエレベーター扉横に貼り出していますが、利用者が活用するのは困難な状況です。利用者が外出を希望する際には、職員が同伴して見守る等の外出支援をしています。	職員間で安全確保についての検討を行いながら「鍵をかけないケア」に取り組んではいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者や虐待防止法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見・要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームでは、相談・苦情対応マニュアルを作成し、「相談・苦情対応について」の研修を行っています。ホーム玄関に意見受付箱を設置し、意見や要望を出しやすくしています。月1回の面談や電話等で利用者・家族の意見や要望を詳細に聴取し実現するよう努めています。「菊水苑喜志の郷新聞」は、行事や利用者の様子、新職員の顔写真とコメントを家族に知らせて喜ばれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、日常的に職員の声や要望を聞き、ホーム運営に反映するよう努めています。「自己評価シート」を活用し、職員と管理者との信頼関係を深めながら個別の課題解決にも取り組んでいます。必要時には個別面談を行い、職員の考え方を理解し助言するなどしています。職員は会議やミーティング等で意見を述べ提案する機会を持っています。管理者は、職員間で合意を得た意見や提案については法人本部とも相談しながら実現するよう取り組んでいます。管理者は職員育成に力を入れ、職員が自主的に勉強会や内部研修に取り組めるよう支援しています。また、外部研修にも積極的に職員を派遣し職員のスキルアップを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていることを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入している段階で本人が困っていること不安なこと、要望等に耳を傾けながら本人の安心確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が今、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応を務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場におかず、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努める。	職員は、利用者の旧友等が来訪されたらゆっくり話ができるように支援しています。利用者の馴染みの場所へドライブしたり、スーパーで買物をしたり、外食したりする機会を設けています。また、利用者が家族と一緒に墓参りや外食、買物、美容院、外泊等、馴染みの場所に出かけられるように家族の協力を得ています。利用者が希望される場合には携帯電話の所持を支援し、手紙や年賀状を出したり、電話をかけたりする際の支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人、家族の経過のフォローし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	利用者の生活習慣や生活歴を把握し、一人ひとりの得意なことや苦手なことに配慮した支援をしています。また、食事の好みを尊重し、副食を選べるようにしています。利用者が言葉で表現できない場合には、実物を示したり、表情で意向を確認したりしています。ホームでは、年間を通じて専門家を招いての音楽療法やアロマセラピーを提供し、利用者と共に菜園作りを楽しむなど利用者の楽しみごと支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が寄りよく暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書は、事前に利用者・家族の意向や希望を確認し、担当職員とも相談してアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し作成しています。介護計画書は実施状況を記録して月に1回モニタリングを行い、3ヵ月を目途に見直しをしています。さらに状況に変化があれば随時見直しを行い、必要時には家族、かかりつけ医師、同法人管理栄養士や看護職員とも相談して現状に即した支援内容にしています。	ホームではサービス向上の取り組みとして、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、日々の暮らしが楽しく張り合いのあるものになるよう、さらに取り組みを進める予定にしています。当面は職員の都合やスケジュールに合わせるのではなく利用者の希望に副ったかわり方を進める、また一人ひとりに合った役割や楽しみを見出せるように取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館への舞踊鑑賞などのイベントへの参加や地域からの訪問散髪も導入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	医療機関受診については、利用者・家族の意向に沿った医療機関で適切な医療が受けられるよう支援しています。また、利用者・家族の希望に副ってかかりつけ医療機関や協力医療機関の医師による訪問診療が受けられるよう、支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを必要に応じて小規模多機能所属の看護師や訪問看護師に伝え、相談し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族と話し合いを行い、事業所としてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム支援に取り組んでいる。	ホームでは看取り支援をする方針はありませんが、入居時に重度化した場合の対応について利用者・家族に十分な説明を行い了承を得ています。重度化した場合の対応として、特別養護老人ホームへの入居申し込みをしている利用者・家族もあります。医療依存度が高くなった場合には、利用者・家族の意向を尊重し、医師や看護師とも相談しながら適切な療養の場へ移行できるよう支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、新人職員を中心とした消防署における救急講習の計画、実施を行っている。また会議にてシュミレーションで初期対応の判断で必要な事項を確認し、危機意識の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず、利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に地域との協力体制を築いている。	災害発生時対応マニュアルに沿って、年に2回以上の避難救出訓練を行う方針を明確にしています。昨年は消防署と連携し、3月、5月に避難訓練を実施しています。職員は初期消火・通報訓練と避難訓練を合わせて行う中で、時間がかかり予定通りに進まないことなどを認識し新たな課題としています。ホーム内に飲料水の備蓄をしていますが、食料品等の備蓄については近くにある同法人特養に保管しています。地域連携については自治会役員とも相談しながら進めている状況です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つく言葉かけや強い口調がないかスタッフ間で確認・注意し合っている。一人ひとり人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 個人情報の取り扱いに関しては契約時に書面を交わしている。	言葉使いや接し方については、接遇についての研修を行い、職員間で話し合っ て利用者一人ひとりを大切にした対応を行うよう取り組んでいます。利用者個人情報の取り扱いについては、職員雇用時の契約事項として、秘密保持を義務付けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけ ている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように声かけ している。食事のメニューを伺ったり、その他、本人の希望を必ず聞くように している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、 その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務は決まっているが、利用者 の気分や体調に合わせて業務を変更 できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援している	定期的に訪問散髪がある。希望時は カラーも行っている。衣類の汚れはす ぐに着替えるようにして整容に気をつ けるようにして支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの嗜好品、食べやすい形態を把握し、選択メニューから選んで頂いている。又、時には職員と一緒に献立を考え、準備や調理を行うことも取り入れている。	ホームの食事は、同法人特養で作られたものを配膳し利用者に提供しています。昼食・夕食は副食を2～3種類から選択することができ、利用者は好みのものを選んでいきます。毎月取り組んでいる手作りおやつは、献立から買い物、調理までを利用者と職員が一緒に行っています。ホーム菜園で利用者と一緒に育て収穫した旬の野菜や果物を、利用者と共に調理して味わう取り組みもしています。利用者は一人ひとりが役割を持って力を発揮しています。また、利用者一人ひとりの希望を聞き、回転寿司や天ぷら屋等へ外食に出かけるなど「食」を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を活用して把握に努めている。一人ひとりの食事量が適量であるかを見ている。食事時間がずれる方への柔軟な対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の清掃が保てるように、毎食後、一人ひとりの口腔状態の確認や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要物品の選定・見直し及び個々の能力に応じたトイレ誘導及び排泄介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、排泄リズムに合わせた支援をしています。オムツ類の使用は極力少なくするよう心がけ、時間を見てトイレ誘導をしています。排便コントロールについても、日頃から意識して支援を行っています。職員は清潔を心がけ、汚染した場合にはシャワー浴や入浴を勧め利用者が気持ち良く過ごせるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴確保を基本とし、一人ひとりの状況、希望、タイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。又、ゆず湯、菖蒲湯で季節感を味わって頂く工夫をしている。皮膚疾患の利用者は週5回、入浴希望が強い利用者については週3回にしたりし支援している。	ホームでは週に2回の入浴を予定し、それ以外では利用者の希望や必要があれば週3回～5回までは入浴できるように支援しています。週5回の入浴支援を継続し皮膚疾患が改善した実績があります。夏場に向けては利用者の状況に応じて入浴の回数を増やすようにしています。ゆず湯や菖蒲湯等、季節湯も用意し利用者に喜ばれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりの生活習慣や、その 時々 の状態に応じて、休息できたり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	定期的に薬剤師からの薬の説明 があり、内容不明時や処方につ いて相談できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	家族・本人からの生活歴を伺い スタッフ間で認識するようにし ている。好きなものや楽しみを 探して少しでも気分転換が出来 るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況や、その日の希望にそって、戸外の出かけられる支援に努めている。又、家族様の希望、協力により、外出、外泊も支援している。	職員は、利用者一人ひとりのその日の希望に副って外出支援をしています。「外出支援表」を作成し、利用者一人ひとりの外出状況を記録に残して共有し支援に活かしています。季節柄、寒い時期には、ホーム周辺の散歩やバルコニーでの外気浴等で気分転換をしながら、利用者が季節感を持てるように支援しています。年間行事では、花見や道の駅散策、外食等に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に自ら電話したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階にはテラスと菜園を設置しています。利用者はテラスで花火鑑賞したり散歩をしています。季節に合わせ菜園を利用しています。居間や食堂、廊下は広くゆったり居心地よく過ごせる工夫をしている。空調にも配慮しております。	1階に小規模多機能事業所が併設されており、2・3階部分がホームスペースになっています。総合玄関では観賞魚が泳いでおり楽しませてください。居間や食堂では周囲の田園風景を眺めることができ、テレビやソファを置いてゆっくりできるようにしています。浴室は家庭的で個浴に適しています。トイレは広く車イス対応となっています。各フロアには空気清浄機を設置し空調にも配慮しています。2階フロアでは廊下から、そのままテラスに出ることができ、テラスにある菜園作りを楽しむことができます。テラスには洗濯物を干すスペースもあり、利用者が気分転換や日光浴をするのに活用できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・廊下にソファや椅子を設置し、一人になれる居住空間を大切にしている。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホームでは居室に手洗い、トイレを設置し、ベッドとタンスを用意しています。室内には畳のスペースがあり、利用者は和・洋どちらの生活様式でも使えるようになっています。職員は利用者の希望を聞きながら、出入り口に暖簾をかけたり、部屋を分かりやすくするために写真等を掲示したりしています。利用者はテレビ、机、椅子等の家具や、写真、ぬいぐるみ等を持参して、居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		